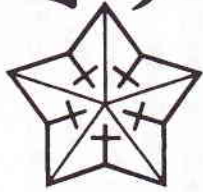


# 大井第一小学校



## 同窓会会報 9号

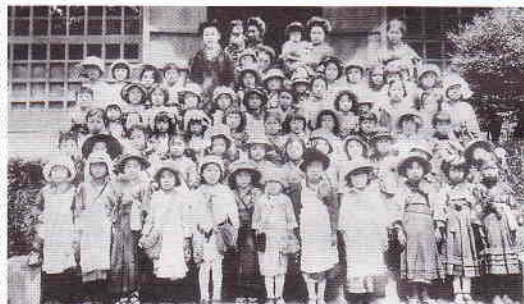
大井第一小学校同窓会 発行責任者 津田 照通 2007年3月

### 現在の光景

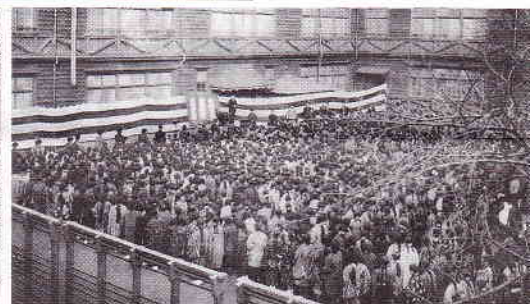


昭和20年代より残る藤棚とシュロの木

### 皆さまから寄せられた写真です。



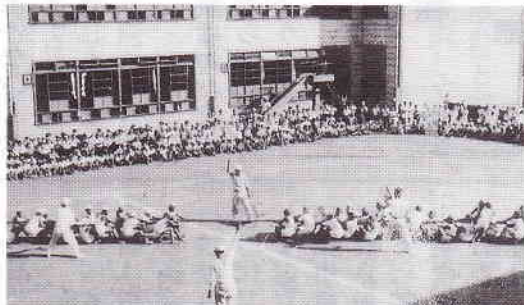
大正12年 大佛遠足 1年生



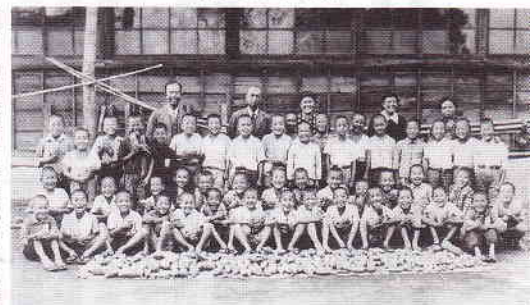
大正13年3月



昭和11年か12年 金沢八景 朝9時半



昭和14年か15年の運動会



集団疎開 豊田にて



昭和21年3月 焼跡の卒業式での先生方



昭和33年 学校で飼っていたサルの「リル」



昭和39年10月10日 鼓隊出場 東京オリンピック

### おあいぢ 大一到任して

副校長 伊佐 玲子

はじめまして。環七沿いの大田区立馬込第三小から大一到任副校長として参りました伊佐玲子です。何とか一年が経とうとしています。馬込第三の前が、品川区内の旗台小学校に九年おりましたので、「大1」のことは、常々見聞きしていました。明治からの由緒正しき伝統校。先生方は研究熱心、大規模校。十数年前、研究授業はもとより事前研究会にも何度か足を運んだものでした。

また、この学区域にある品川歴史館、大森貝塚にも来たことがあったので、去年の三月「大1」と聞いたときは、大変驚きました。

さて、四月。子どもたちの印象は、愛情たっぷり育てられ、初対面の人にも臆せず堂々とした子どもたちと感じました。

自分が赴任して初めて分かったことは、同窓生や地域の人々が「大1」をこよなく愛していることです。

転入生の保護者が、転入手続きの折、たいがい口にするがあります。地域の方から「大1は、いい学校ですよ。」と話しかけられた。「やはり大1に行くのですね。」と言われた。あるいは、「小学校なら大1にしなさい」と勧められたと言うのです。転入前に安心されて来校されます。

もう一つは、大1に来た初日、同窓会からの寄贈品を見て、大変驚いたも

のでした。学校の児童の安全を願って、こんなに多くのカメラ、モニターがあり、心強いです。

同窓生、地域の方が、児童の安心・安全に留意してくださっていることに頭が下がります。それとともに、自分が副校長として、第一に児童の安全、安心に留意したいと思って日々、仕事をしています。

名実ともに副校長と呼ばれるようまだまだ修行の身ですが、同窓生の皆様、どうぞよろしく願います。

『学校便り』より

校長日記

確かにお客様ですが…

学校長 桑野 貴文

先日、大工の棟梁と話をする機会がありました。最近のことだそうですが、戸建の注文を受けて建築をしていたところ、幼い子どもを連れた施主の夫婦が現場を見に来たそうです。棟梁や若い衆があいさつをして進み具合を説明したり、夫婦もデジタルカメラで写真を撮ったりしていたのですが、そのうち「お茶とか出してくれないの？」と聞かれたそうです。

棟梁が聞いたではありません。若い夫婦が棟梁に聞いたのでした。棟梁は、一瞬耳を疑ったのですが、側にいた若い衆があわてて近くの自動販売機まで走って行った、というのです。

以前は、(お世話になっていきます)という気持ちで、十時や三時のお菓子職人さんに差し入れたものでした。夫婦で働いているとなかなかそうもいきませんが、休みの日などを見つけて見に行った時は、(せめてこの時だけでも…)という気持ちで、大福などちよつとしたものを用意したものでした。今でも、そうした方のほうが多いのではないのでしょうか。けれど、棟梁から聞いた話は、違っていました。「確かに、お客さんには違いないんですけどね…」と苦笑いしながら棟梁は、その先の言葉を飲み込んでしまいました。

要求ばかり、自分の利益ばかり求める風潮が世の中に広がったら、私たちの社会はどうなるのでしょうか？

大井第一小は私の宝

旧職員 S 13 〓 17 原 登志

「遠く海まだ日は暮れず燦として白帆は一つあらわれにけり」読人も知らぬまま、この歌と風景を思う。大井第一小の木造二階建東棟の二階教室から私が度々見た海である。放課後ふと東の窓に見える海。遠霞む房総の山々に心が和んだ。朝の光しか入らない隙間風の寒い教室だが、私はここを第二天国と名付けた。天使は五十四名の少女。ここが私の生きる場所と思った。一学年の学級数四〓五級の大規模校に女子

師範新卒の私が赴任したのは、一九三八年(昭和十三年)四月である。厳しい日々であったが張り合いがあり毎日楽しかった。五年、六年、一年、五年生を担任し、昭和十七年に転任、結婚、退職、疎開と辿り、東京を離れた。僅か四年間だが、社会人としての第一歩を踏みしめたこの頃の思い出は多い。素直な児童、その家族と地域の寛容さ、個性と実力のある職場の先輩の親身な指導、これらはすべて私の支えとなり一生の宝である。

中国大陸での戦況は悪く、食料、日用品は切符制となり、身近に出征する人も多くなって来たが、まだ学校教育は続けられた。中、女学校に全員進学の時代であったから、授業中は無論のこと、朝と放課後の勉強は毎日だった。印刷用紙や図画用紙が粗末になり、下駄ばきの児童も多くなった。でも皆明るく、学校にはいつも人が居た。休日出勤などとは言わず、子供との交流や自分の教材研究に出勤したり、町内の人も自由に入りに出していた。教員にも少しはゆとりがあつて、華道、書道、テニス、水泳、合唱、果ては文集発行にも及んだ。粗末な紙の手刷りの文集「れいめい」は未だ私の手許にあり当時を思い出す。

当時から評判の大井第一は現代でも話題となり、伝統が守られていることを思う。また当時の児童だった方々からいまだに便りをいただき感無量である。戦後、大井第一職員の会からの連絡で、又、大井第一とのご縁が出来た

ことに感謝している。

※「原 登志先生」昭和十三年卒の私達は、登志先生のご主人(月組・担任)の「原十郎先生」に教えを受けた友人もおります。今度、奥様に原稿をお願いし、二度もご丁寧なお便りを頂き、快くお引き受け下さいました。私共もすでに八十才を過ぎ、当時の先生方は他界されました。で、「私達にもまだ『先生』とお呼び出来る方がおいでになったのか」と、思いますと、嬉しさがこみ上げてきました。原先生、玉稿、ありがとうございます。これからも長く、お元気で過ごして下さいませ。(編集委員 松崎 滯子)

流浪を続けた図書室

旧職員 S 40 〓 50 S 61 〓 H 1

後藤 正典

昭和四十年四月、大井第一小学校へ着任した私は、学級担任以外の校務分掌として学校図書館の管理運営を担当しました。数名の同僚が一つの部に所属し、児童の読書や図書利用の指導・図書の見直しや購入とその整理など図書の管理が任務でした。

当時大井第一小学校は他の学校同様、児童数が多く、教室不足の状況で図書室という特別教室は無く、資料室と言われる部屋などに分散して図書が管理されていました。さらに今までの校舎が新しく鉄筋三階建ての校舎に建て替えられる時期となり、昭和四十五

# 『同窓生の想ひ』

## こぼれ話・一

昭和5年卒 岡田 一郎

年から五十年にかけて順次工事が進められました。その間、校庭にはプレハブ校舎が設置。教室はその度に移動する状況の中、図書類、学習教具などの保管場所は非常に不安定な状態にありました。数千冊に及ぶ図書はいよいよ居場所を失い窮余の策で、旧プールが旧校舎の地下に物置きとして残存しており、その場所を整理して図書室に改装しました。書架・机やいすを寄せ集め、図書室としての機能を果たす場所がやっと得られました。しかし改装までの大掃除、書架・机などの搬入、図書の搬入の労力や時間は今考えて見ても大変なもので、担当教師の仲間や手伝ってくれた児童のご苦労がなつかしく思い出されます。

昭和五十年、新校舎が完成して現在の図書室の位置に図書が全部移動し、一冊一冊の本が自分の位置に落ち着くまでの作業は、前述の時よりも更に大変な作業でした。限られた期間内に新しい図書室（機能的な図書室として書架の配置・図書の配列・管理システムなど、より効果的環境設定）へ全部の図書を移すのですから、休み時間や放課後の時間、担当教師・児童が懸命に働きました。

幾多の変遷を経てやっと、今日の場所の図書室に落ち着きました。先日、久しぶりにこの場所で会合があり、その後の発展充実状況を拝見して嬉しく思った次第です。

私の趣味は写真を撮ることである。従って三ツ又の森商会とは馴染みの客で足しげく通っている。この森さんに同窓会々報に載せる原稿を頼まれたので快く引き受けることにした。

まず大井第一小学校（学校と略す）と我が家との関わりから説明して置こう。

学校には、私の父（明治十九年生れ）、姉弟から私の孫まで総計十七人位お世話になって来た。

父の時代のことは知らないが、私の知って居る範囲の古い事柄を書いていこう。

この原稿を学校の近くに居られる大橋鎮子さん（『暮しの手帖』で有名）に見て頂くことにする。

### 第一話

私の入学は大正十三年四月、前年九月には関東大震災に遭ったので校舎は相当の被害を受けたと見えて、校舎の数ヶ所に十数厘の角材によって二階の廂から支えられていた。

校門を入ると左奥に校長先生の居宅が在ったが、翌十四年に雨天体操場と小校庭が出来たので校長住宅は無くなった。

私は一年松組、この組名を松・竹・梅・雪としたのも私の入学した年から

であろう。

何故か？六つ上の姉がその三月に卒業していて、姉の通信箋には六年四組とある。

通学靴はランドセルが、やはり始めの頃であったので多かった。

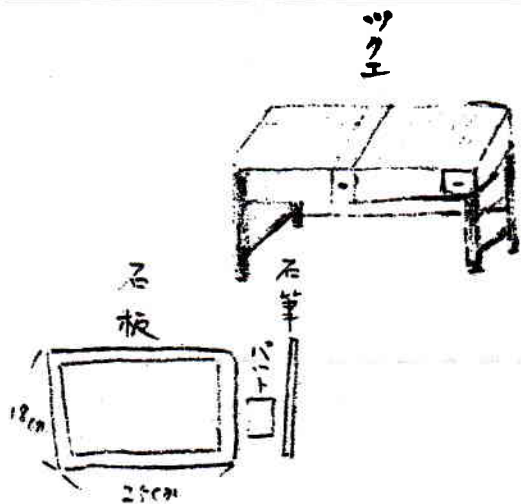
一、二年の頃は筆記用具は石盤と云って、黒い石片の上に石筆（ローセキの細い棒）で算術（算数）の計算、読み方（国語）の書取り、字の練習をやった（国定教科書―文部省）。楽しいのは、やはり運動会と遠足だった。

運動会の徒競走は足が遅いので苦手だった。

遠足は大佛（西大井五丁目養玉院如来寺）。同級の遠賀君は、朝自宅から学校に集合し、自分の家の大佛に遠足し、又学校に戻って、再び自宅の大佛に帰るので笑の種だった。第一話は丁度切りが良いので筆を置く。

## 古い校舎

昭和13年卒 岩城 英敏



私が大井第一小学校に入学したのは、昭和七年（1932）です。その当時、いつ建てられたのか分からない校舎が、校庭の北側と池上通り側（西側）にありました。北側校舎の後ろに講堂があり、中庭もありました。昭和八年の夏休みが始まってすぐに、西側の校舎が放火によって焼失してしまいました。犯人は山王在住の青年だったと聞いております。教室がなくなったので、講堂の真中を廊下にして、左右に振り分けられた教室が四室あるいは六室、突貫工事で出来上がりました。私がいた竹組は、この臨時教室に入りましたが、音が筒抜けで困ったことを思い出します。北側校舎に、補強のため直径30センチ位の丸太が入られましたが、完成したのは何時だったでしょう。昭和十年の室戸台風の時に、校舎がギシギシと鳴ったのを覚えています。教室や廊下の床は、児童がその上を何十年も歩いているので磨り減っており、床板を留めているクギは、頭が丸くなって何時も光っていました。当番で雑巾掛けをしたのも、思い出になっています。あるとき担任の先生が、「麹町の永田小学校はエレベーターがついているのに、大井第一はこんなに古い。」とぼやいており、当時の児童も「第一学校イイ学校、上がってみたいらボロ学校。」とはやしていました。当時はこのような古い校舎だったこと

を覚えています。

## 傘寿にして思ひ

### 「健康の第一歩は歩くこと」

昭和13年卒 仁木 勇夫

昨年11月に、これを最終とする同期会が開催されました。第1回から隔年開催され今回が10回目になります。その間、最も大きな話題になったものは健康や物故者に関するものでした。私はその健康に関して「歩く事」を若干実践していますのでその体験を報告致します。

さて、ここから本題に入りますが、私は会社勤めの頃には余り「歩数」を意識しませんでした。然し朝食前に身体を動かすと食事も美味しいし気分も爽快になるので、朝方散歩に出るのが習慣になっていました。そして本格的に歩く事を意識し、万歩計を付けてカウントするようになったのは、平成5年春に退職してから数ヶ月後の事です。それ以来、盆暮正月なしで毎日1万5千歩(約9km)を目標に約12年間歩き続け、昨年の七夕様の日にその合計距離が延べ4万kmに達しました。これは丁度赤道一周の延べ距離に相当します。その後、今後は縦方向に地球を一周しようと北極を目指して出発し、地図上では只今シベリアを北上中です。因に私の標準は1秒間に2歩(分速120歩)歩幅は1歩0.6mで、1時間の歩行距離は約4km強です。早朝の散歩は、年間を通じて原則6〜7AM間で

す。お正月頃は寒くて暗くて時々弱気も出てきますがここが踏ん張り処です。途中小さな公園で一人でラジオ体操をやり、その後生け垣の四季折々の花を眺め乍ら朝の一人散歩を楽しむ訳です。

「沈丁の 香りに誘われ 回り道」

等の駄作もそのような時の産物です。後は日常生活との連携と言うことになりませんが、マイカーの使用はなるべく控え、バスであれば二つ三つ手前を下りて後は歩く位の心掛けが必要です。兎も角、「健康は薬やお医者さんから貰うのではなく自分で創るのだ」ということを忘れてはいけないと思います。

## 思い出の記

昭和14年卒 大谷 和夫

昭和もとづくに過ぎ去り、平成の世となったが、平成18年は昭和で言えば81年になる。何故昭和に拘るかと言えば、東京府荏原郡大井町4484番地で生まれたのが昭和元年だからである。その後有為転変の修行時代、職業時代を経て、平成3年現役を引退し、平成4年に生まれてから現役引退迄の歴史を「激動の昭和一代記」にまとめ、以後、道楽時代に入り、古稀までの主として歴史探求の記録を「GOLDEN AGE」にまとめ、更に喜寿まで「続GOLDEN AGE」とし、それぞれ出版して友人、国会図書館や大田区図書館に寄贈した。更にその後

はインターネットのホームページ「続GOLDEN AGE」更には「OK牧人の新知識」に各種公開しているが、米寿までには又単行本に纏めたいと思っている。

具体的内容は上記出版物やホームページに詳しく出ているので省略させて頂くが、ここには過去を振り返り、今までに触れていなかった2点について述べてみたい。

第一には時代的に非常に面白い得難い経験ができたことである。大東亜戦争にしても兵隊に行く直前に終戦となり、終戦前後は旧制高校で、日本の軍部や進駐軍の悪宣伝の影響を殆ど受けなかった、珍しい世代である。又電気技術者としてまだ海外渡航許可制だった昭和29年から海外出張が始まり、世界の殆どの地域を見聞することができた。

第二には、子供の頃から大学を出る頃まで含めて、こんなに長生きするとは夢にも思っていなかった。最近まで誤解していたが、平均寿命というのは零歳児の平均余命のことで、現在の平均寿命は男子で78.53歳で、既にこれも超過しているが、実は我々が生まれた時の平均寿命は僅かに44.82歳であった、という事を最近知った。昭和22年になってようやく平均寿命は50歳を超えたのであり、学生時代漢詩から得た知識で「人生50」で過ごしてきたので、長期的には人生計画は全くの予想外れだったと言わざるを得ない。

## 大井第一小学校…ある時代

昭和22年卒 山上 伸也

私の大井第一小学校入学は昭和十六年、戦雲急を告げる第二次世界大戦の始まる年。卒業は終戦の翌々年、戦後の混乱が続く昭和二十二年であった。

### 「桜の木」

第一小学校、最初の思い出は、入学式の日。校庭の満開の桜だった。母に手を引かれルンロンと私の心はずんでいた。今日から僕は一年生、もう子供じゃないんだ。

それから6ヶ月、同級生のある子を好きになった。運動会の日、桜の木の下の初めて二人きりで話をした。何を話したのかまったく覚えては居ないが、ただ嬉しくって嬉しくってルンロンの私は木に登ってしまった。桜の木の枝に…。私のほのかな恋はそこでお終いになった。石川先生がとてもおっかない顔で怒ったから。

「そんなところで何をやっているのだ！すぐ降りるのだ！」

とうとう最後まで、その恐ろしい石川先生とふたりきりで口を利く事なしに終わってしまった。(4年後集団疎開の豊田で一緒になっても)

### 「おしっこ」

私は大井第一小学校一年松組。担任は音楽の大田先生だった。最初の授業の日、皆、一生懸命だったかどうかは覚えていないが、比較的静かであった

と思う、誰かが「先生、おしっこ」といった。先生は「行つてきなさい」と言い一人の生徒がトイレへ出ていった。すると「僕もおしっこ」という子が出てきた。そのあとは「僕も」「私も」と次から次へ言い出して、先生と2、3人残してみんな出て行つてしまつた。私は別にもよおしては居なかつたが、何だかとても嬉しくなつてガヤガヤ歩く皆の後について行つた。

私たち以外は誰もいないシンと静まり返つた廊下と、非常に得をしたように嬉しかった気持ちは今でもはつきり覚えてる。

(ついででの追憶)それから幾日かたつて、お漏らしした一人の生徒が小使の裏の井戸端で下半身裸にされて小使いさんに水をかけられ洗つてもらつていた。寒い日だつたと思うがその子はブルブルとふるえていた。

「運動会」

「背高のつぼの煙突さん 風もないのにフラフラと…」初めての運動会のお遊戯だ。戦争中とはいえ未だ国内は平和だつた。私の家族は5人家族、出征している父を除いて祖母、母、弟がお菓子をついばいお弁当も食べきれないほど持つて観に来ていた。友達のお父さんお母さん、近所のお爺さんお婆さん、買い物に行く商店のおばさんなど顔見知りの人たちも沢山。運動場を囲んで、上に食べ物と人がいっぱいのござが校庭を取り巻いて。その後ろには二重三重に立っている人でいっぱい。その衆人注目の真ん中で小さいとは

言いながら男子たるもの女の子のように手をふり足を上げて踊るなど非常に恥ずかしい事と思つた。……でもちゃんと踊つた。家族の顔なんて見もしなかつたし、だいたい周りなどまつたく目に入らなかつた。

幾十年か経つてある日母が言つた。「初めての運動会で、おまえがお遊戯を踊つたの見て此処まで成長したのかと涙が止まらなかつた…」と。私はその言葉を忘れぬ。

次号へ続く。

タイコ人生

昭和40年卒 平野 嘉昭

大井第一小学校の北川晋雄先生には小学校の3、4年の2年間お世話になりました。先生はとても音楽が好きで、先生のオルガンの伴奏でロシア民謡をクラスの仲間であつたり、クラシックの名曲を聞かせてくれたり、本当に楽しい授業でした。私が今でも鮮明に記憶するのは、コントラバスに触つたことでした。ある日突然、北川先生は教室にコントラバスを持込んできたのです。横浜国大でジャズをやっている弟さんの楽器だそうで、クラス全員にコントラバスを弾かせてくれました。勿論、弓ではなく、ジャズベースのよう指で弾かせてもらいました。とても感激したことを思い出します。

また、先生は、鼓笛隊も始めました。保護者会の際に全部の親を説得し、寄

付を集め、鼓笛隊を編成したので。残念ながら、この時ドラムはできませんでしたが、中学に行つてからブラスバンドでドラムと出会いました。

縁あつて、この同窓会を機に、北川先生は毎年奥様とともに、私が約30年間在籍している、社会人ビッグバンド「MONDAYNIGHT-JAZZ ORCH」のリサイタルに毎年足を運んでくださっています。そして、3年前の2月には、先生からのご紹介で同じ品川区立の杜松小学校でMONDAYNIGHT JAZZ ORCHにとつて初めてのスクールコンサートを実現することができました。先生に恩返しが出来たような気分でした。子ども達も喜んでくれ、熱いメッセージを作文にして送つてくれました。楽器紹介では、子ども達にいろんな楽器を触ってもらいました。

子ども達の中からこれをきっかけに1人でもプロのジャズマンが出て来てくれたら、と願わずにはいられません。ドラムをやるからには、死ぬまでタイコを叩き続けていきたいと思つています。幸い、私の周りには、世界的なドラマーである、ジェフ・ハミルトン、そして市川秀男さん、中村吉夫さん、横山均さん、渡辺毅さんなど、私のタイコ人生を暖かく見舞つてくれていた優れたミュージシャンがいます。これらの人々をこれからも大切にしながら、少しでも技術や音楽性を磨いていきたいと思つています。

戦争体験を綴り伝えよう

S 24年卒同期会記念誌

編集委員会代表

溝口とく子(旧姓 原田)



記念誌の題名は「ヒマラヤ杉」、背表紙には、戦争を知つて育つたわたしたち、と副題も付いている。山吹色の表紙を飾るのはあの頃第一小の庭にあつたヒマラヤ杉と、その下で勉強している子供達―当時の私達―の絵。東京芸大卒の同期生が描いてくれたもので本文も彼女の温かい絵で統一されている。これが古稀と日本の敗戦60年が重なつた私達S 24年卒同期会記念誌だ。H 17年秋の同期会時、梅組担任の小沢達子先生はおいでにならなかつたけれど短文を寄せて下さつた。「戦後60年、あの抜けるような青空としんしんとした静寂さ、虚脱感がいまも残つています。皇民教育の場で聖戦を信じて教え込んだ罪深さを、今更のように恐ろしく思いました。」70才の大台に乗る日が迫っている私達だつた。S 20年3年生だつた思い出を皆で書こうじゃ

ないかと決まった。そしてその思い出は太平洋戦争と切り放すことは出来ない。

日本現代史大激変の時を共有してはいても、具体的体験は各人各様だ。就学前に教育勅語を暗記させられた、鹿島神社の軒を砕いた爆弾の落下音に身をすくめた、学童集団疎開で空襲に会ったり空腹のあまり「わかもと」や「歯みがき粉」を食べた、父や兄を戦場で失った、空襲で燃えさかる炎の中布団をかぶりトタン塀に体当りして子等を救った母親の思い出、満州からのつらい引き揚げ、戦後葉がなく父親を悲しくも亡くした、食糧の買い出し、脱脂粉乳の給食のまずさ等々。戦争で子供ながら恐ろしい目に会った私共には武器を持たなかった戦後日本がいかに貴いものであるか身にしみてわかる。だから逆に、実に貴重な体験をしたとも言える。今の子等には理解し難いだろうけれど、体験を伝えて行く義務があるのではないか。平和な世界の為に。最後に同窓会の方々、ぜひ同年会誌をつくり、二度とあつてはならない時代の体験を綴り伝えて下さる様お願い致します。

## 同期会クラス会だより

### 傘寿の会

昭和14年卒 津田 照通

私達昭和14年の卒業生は平成18年4

月から19年3月にかけて80歳を迎えました。そして10月23日「傘寿の会」として同期会を開きました。

このところ晴天続きだったのに、この日に限って雨が降り「傘」が必要になり、まさに「傘寿」に相応しい思い出の日になりました。

私達の生年月日は大正15年の人、昭和元年の人、昭和2年の人、と複雑な年代です。大正15年は12月25日で終り、12月26日から31日までの6日間が昭和元年です。そして大正15年4月から、昭和2年3月までに生れた人が同じ学年でした。昔は「数え年」で4月から12月までの生まれを「遅生れ」1月から3月までの生れを「早生れ」と言いました。私達の「遅生れ」の人の「数え年」は昭和の年号と同じです。その頃の生年月日は届け出が鷹揚と云うか曖昧と云うか、12月に生れても届け出の具合で1月生れにすることも出来ました。そんな訳で私達の学年には昭和元年生れは無く、昭和2年1月1日生れや1月2日、3日生れが多かったようです。

「昭和、昭和、昭和の子供よ僕たちは……」と言う歌がありました。その頃の校舎は木造2階建てで、つつかえ棒が取り付けられ、窓ガラスは壊れないように紙を×印に貼り、お弁当は「日の丸弁当」が主力でした。講堂で行われる卒業、入学、祝日の式典には天皇・皇后陛下下の「ご真影」が飾られ、モニングに白手袋の校長先生が恭しく読み上げる「教育勅語」を頭を垂れて聞きました。

紀元節、天長節、明治節等にはそれぞれの歌が歌われ、皇太子殿下が誕生された時には「日の出だ、日の出に、鳴った鳴ったサイレン……」と云う歌も歌われました。そして紅白のお餅を貰った覚えがあります。

2・26事件の日は大雪で、戒厳令が布かれ外出禁止となり、学校は休みにまりました。支那事変の時代には「戦勝祝賀」の提灯行列も行われ喜んで参加したものです。それから大東亜戦争へとエスカレートし遂に終戦を迎えましたが、その時代二十歳前後だった私達の青春は食糧難で夢のない酷しい日々の連続でした。必然的に私達は我慢強い人間になり、苦勞に耐え抜いたこの身体は「傘寿」にして今猶元氣な日々を送れる恩恵に浴しています。このところ毎年同期会を開いています。遠くは札幌から泊りがけで毎回参加される方も居られ、今年は28名が出席しましたが6名の計報もあり、年と共に出席者が減少し淋しい限りです。然し来年もまた元氣で楽しい同期会が開かれることを祈っています。

### 生きている証

昭和15年卒 宮内 邦夫

私は昭和九年入学、十五年卒業の者です。

同級生は六十一名、男子組で、担任は一年から六年まで横山浩先生でした。

間に戦争を挟み、大井町もかなりの戦災を受けたこともあって、所在不明

の方十六名、逝かれた方二十二名、連絡のとれる方二十三名です。毎年十月の第三日曜（鹿島神社の例大祭の日）クラス会を行っています。

同期会は六月、圧倒的に女性が多く、しかもお元氣です。平均寿命の差の関係でしょうか。

ところで昭和九年といえ、大井町には第一京浜国道以外には舗装道路も無く、大方の家庭には水道も無く井戸水での生活でした。

昭和九年一月の「時事新報」という新聞によれば「幕末、京洛の巷で暴れ回った新撰組の隊士稗田利八氏が大森区入新井に元氣に余生を過しておられる。お孫さんは三越の社員」というような記事が出ておりました。私達は正に江戸時代の武士と共に生き、同じ空気を呼吸していたのです。ちなみにこの年は、ハチ公の銅像が建ち、東郷元帥の国葬があり、ヒットラーが大統領になり、丹那トンネルが開通し……、カレーライスが十五銭、コーヒは五銭という時代でした。

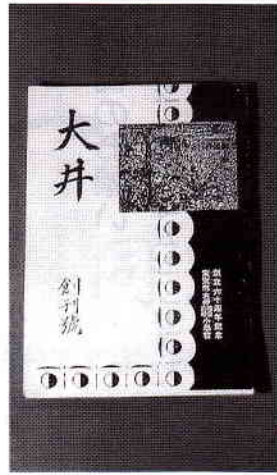
私は今日まで大井町に住み、街の、そして大井第一小学校の変遷を、見聞き、体感してきました。想えば長いこと生きました。

ひたすら、激動、激変の、刺激の多い、素晴らしい時代に生きたものだと、その「運の良さ」のようなものに感謝しています。この怒涛のなかを上手なサーファーのように楽しみながら乗り切れた原点は、大井第一小学校時代に育てていただいたのかも知れません。残された人生、精一杯、自分も楽し

みながら、もし、少しでも他の人々のお役に立てることがあれば（それこそが自分自身の”生きている証”なので）体力と気力の続く間は、楽しみながら、そのような仕事をしていこうと思っ

お知らせ

埋もれていた資料4点、ご希望の方に6月頃実費（コピー代）でお送りします。



① 『大井 創刊號』 創立六十周年

記念 東京市大井尋常高等小学校  
学校長 河原 耕蔵 昭和十年十一月発行 900円



② 『大井 第二号』 紀元二千六百年記念

東京市大井尋常小学校  
学校長 河原 耕蔵 昭和十六年二月発行 900円



③ 紀元二千六百年 「参宮の栞」

品川區舊大井町九校聯合参宮團  
昭和十五年五月の旅行時に配布 400円



④ 『大井第一』 第1号（昭和26年1月15日）

第30号（昭和39年3月24日）  
葛生、仲山、小島各学校校長をはじめ、当時の先生方の言葉、教育、作文、卒業生全員が書いている将来の夢等、素晴らしい内容の学校新聞です。昭和36年3月号（第24号）の一部が欠落しています。 2000円

ご希望の方は振込用紙で会費と一緒に振込み下さい。

会員からの問い合わせが集まっております。ご存知の方は、お知らせください。

すようお願いいたします。

○ヒマラヤ杉、桐の木の写真が欲しい

○校門を入った右側の岩石園の岩はどうなった？

○第一（だいいち）の呼称が大一（おおいち）になった訳

○校歌2番（男）3番（女）を男女一緒に歌うようになった時期、理由

○運動会で同窓会長が万歳をするようになったのはいつ頃から？

○昭和60年卒6月（中川先生）卒業記念に埋めたタイムカプセルをご存知の方教えて欲しい。20歳になって開けようと約束した。

『振替用紙の通信欄より』

○同期の方々の消息がないのが、淋しいです。82才にもなるので、無理もないことでしょうか。一人でも知り度いです。

（S11年卒 磯邊 澄子）  
○保坂功は平成18年1月13日逝去致しました。永い間お世話になりました。事御礼申し上げます。功はとても第一小学校を誇りに思っております。益々のご繁栄をお祈り致します。 保坂久代

（S14年卒 保坂 功）  
○同期会（S15卒、H18年5月21日開催予定）を楽しみにしています。ずっと続いていて嬉しいです。よろしくお願致します。

（S15年卒 中原 紀子）  
○いつも御世話になります。5月に同期会がありますので、病気をしない

ようケガをしないよう気をつけて、出席したいと思っております。

（S15年卒 田中 和子）  
○寺子屋発祥後130年の大井第一。感動です。岩城様の貴重な今まで知り得なかつた具体的な戦前戦中の記録は、心して拝読致しました。鹿島町の線路近くに住んでいた私も狸の妄想の思い出があります。六松組の挽歌、悲しくて、温かくてよいご供養ですね。

（S17年卒 橋本 貞子（汀子））  
○昨年の130周年記念会出席出来て幸せでした。

（S18年卒 菅野 義信）  
○毎々、同窓会会報ありがとうございます。出来れば「通信欄」のたよりを、多くの年代の方々も記載していただくと、より楽しく親しみやすくなると思います。

（S18年卒 小谷 清）  
○130周年記念式典の際、映像の歴史がありました。昭和20年の豊田への「そかい」の写真がありました。1年生で「そかい」に参加したのは私1人だったので、写真をいただきたいのですが手続き方法がありますか。

（S26年卒 栗原 良平）  
○大井第一小発祥の地「来迎院」には、それを示す記念碑のようなものがあるかもしれません。学校・区教委・同窓会一体となって135周年行事として考えてはいかがでしょうか。

（S28年卒 下田 孝）

e-mail address:kannyos@go.enjoy.ne.jp 毎日開けてます。

○担任でありました迫田先生、昔と変わらぬ大きなお声でお元気の御様子嬉しく思い、先輩方もお若くお元気でいらした事、何よりでした。会報で同窓会の事又思い出しております。

(S 32年卒 中島 紘子)

○130年の伝統と誇りを守りつつ、時代に促した教育を目指し、増々の発展されますことをお祈り致します。迫田先生の御元氣なご様子拝見し、懐かしく又嬉しく存じました。

(S 32年卒 新田 好恵)

○創立130周年おめでとうございます。出席された先生方のお写真の中に恩師北川晋雄先生もいらつしやり、元氣なお姿になつかしく思いました。

(S 40年卒 小笠原輝美)

### 投稿のお願い

「文字」にして残しておきたい思い出等、随時投稿をお待ちしています。10月30日までに、郵便、Eメールで、森または松本宛にお送り下さい。

### 第6回定時総会のお知らせ

日時 平成19年5月19日(土)

午後2時

場所 大井第一小学校

- 1、事業報告及び収支決算の承認
- 2、事業計画及び収支予算の承認
- 3、役員の変更の承認
- 4、その他本会の運営上特に重要な事項。同封の振り込み用紙内の通信欄にて出欠席のご返事をお待ちしています。

### 平成17年度 収支決算報告書 平成17年4月1日より平成18年3月31日まで

収 入	支 出
16年度より繰越 4,446,466	会費振込手数料 19,750
会費入金 (17年分) 549,000	会報関係 929,427
預金利息 106	(印刷費 8号分) (496,121)
17年度卒業生入会金 37,500	(発送費 8号分) (433,306)
(@300 125名分)	集会費 100,010
現金 26,000	通信費 36,808
	その他経費 21,598
130周年行事費 2,691,000	130周年行事費 3,883,460
(会費) (952,000)	(振込手数料) (45,630)
(寄付) (1,653,000)	(印刷費) (387,763)
(記念誌) (86,000)	(発送費) (443,186)
	(記念誌代) (301,924)
	(防犯カメラ設置工事一式) (1,575,420)
	(その他経費) (1,129,537)
	次期繰越金 2,759,019
計 7,750,072	計 7,750,072

### 会費納入のお願い

同窓会事業を継続していくには、会報等の印刷代、通信費、事務費、母校に関わる慶弔費等の諸費用がかかります。平成17年の会費納入者は約八〇〇名で約七〇〇〇名に第八号会報を送ることができました。これからも安定した同窓会活動を続けていくために、会費納入に皆様のご理解とご賛同を心よりお願い申し上げます。

一口一〇〇〇円

同封の振込用紙をご利用頂き、五月末までにお振り込み下さい。

### 名簿の資料提供にご協力を!!

(新住所・改姓名をお知らせください)

会報を通じ、より大きく同窓の輪が広がることを願ひ、正確で充実した資料づくりを目指していますが、毎年、相当な数の宛先不明の会報が戻ってきます。

名簿委員会では、会報をお送りするために、「個人情報保護法」に則り、同窓会員の皆様の自宅住所・電話番号の個人データを厳重に管理し、保持しています。転勤、結婚、転居などにより変更となる場合には、事務局までお知らせください。

### 物故者

平成19年1月 第17代校長

赤池徳平先生(享年95歳)

謹んで、ご冥福をお祈りいたします。

### 訂正とお詫び

第8号「古川吉崇」先生とすると、この「古川吉宗」先生としてしまいました。謹んでお詫びをすると共に、訂正いたします。

### 大井第一小学校ホームページ

とても充実した内容で、評判のホームページです。ぜひご覧下さい。

### 編集後記

同じ年代でも記憶している事、心に残る想い出は人それぞれです。

今回も素晴らしい原稿をいただきました。今では想像も出来ない学校周辺の事、校内の様子・子供達の様子。

特に戦争を体験された方々の文章には驚く事がいっぱいです。平和な日本であり続ける為にも、こういう方々からの文章を若い方にも大切に読んで欲しいと思います。

これからも親しみやすい会報作りを努力してまいります。寄稿下さいました皆さまにお礼申し上げます。

### 同窓会事務局

全ての連絡事項は左記宛にお願いします。

森 秀雄

〒一四〇一〇〇一四

東京都品川区大井一―五三―九

TEL〇三―三七七三―〇五〇六

Eメール: hide@mori-shouka.co.jp

松本 徳太郎

〒一四〇一〇〇〇四

東京都品川区南品川五―一三―一

TEL〇三―三四七二―〇二八六

Eメール: mats745@cts.ne.jp

〒一四〇一〇〇一四

東京都品川区大井六―一―三二

品川区立大井第一小学校

TEL〇三―三七七二―五二四〇

http://www1.cts.ne.jp/oiichi/

### 編集委員

昭和13年卒 松崎 滯子

昭和34年卒 森 秀雄

昭和35年卒 東山 周子(兼村)

昭和35年卒 上野 良子

昭和35年卒 松本徳太郎

昭和42年卒 井上 幸子(山崎)

昭和49年卒 三戸 美子(山口)